

報告

第 2 2 回 根 研 究 集 会 に 参 加 し て

臼 木 一 英

北 海 道 農 業 研 究 セ ン タ ー 畑 作 研 究 部

第 2 2 回根研究集会在 2005 年 7 月 2 日に北海道札幌市の独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構北海道農業研究センター(以下、北農研)・新会議室で開催されました。今回、私はポスター発表者のみならずスタッフ、座長といった大役を命ぜられ、心持ちプレッシャーを感じながら参加しました。

当日は、北農研の一般公開と開催日が重なり、にぎやかな雰囲気の中での開催となりました。会場は、札幌の中心部からさほど離れていないものの、周辺に宿泊施設がないことから参加のみなさまにはご不便をおかけしたにも関わらず、北海道外、全国各地から多くの参加者が集いました。口頭発表 11、ポスター発表 15 の講演が行われ、それぞれに活発な議論、意見交換がなされ、発表者のみならず参加者全員がそれぞれに得るところがあったはずだと思っています。

さて、「案ずるより産むが易い」とはこのことで、当日は私の不安をよそに順調にことが運び、会議室の場所がわかりづかったことを除けば、滞り無く終えた印象を持っています。口頭発表では形態から生理、計測・評価法といった多岐にわたった今回の内容から、「根の研究」は幅広い職種、専門にわたることを再認識させられました。そのことが研究会の活力の源になっていると感じています。偏った専門集団の集まりよりも、それぞれの立場や意見が大いに違う研究者が集い、議論を重ねて補充し合うことが遙かに活力の増進に役立つことを改めて感じました。

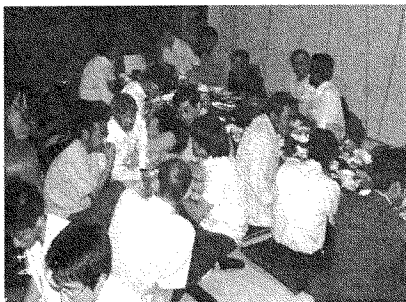
もちろん、私が座長を務めさせていただいた演題についても大変に興味深く、活発な質疑応答があったのは言うまでもありません。東北農研センターの村上さん他 5 名による「根系識別のための染色法」では、根系を染色する手法についてわかりやすく説明していただき、圃場レベルでの調査への応用の研究を期待したいと思いました。東大院の田島さん他 4 名による「ラッカセイの根粒サ

イズとアセチレン還元活性で評価した窒素固定能との関係」では、生物的窒素固定研究に興味を持つ私にとって学ぶところも多く、また、今後の研究発展にもエールを送りたいと思いました。名古屋人の関谷さん他 1 名による「キマメとセスパニアはいかにして地下水を利用し乾燥ストレスを回避するのか?」では、作物間で異なる水獲得戦略について説明していただき、大変に研究者としての探求心が刺激を受けました。ともかく、慣れない座長の大役でしたので、緊張して思うようにできなかった点を反省するとともに、今後の糧にしたいと思っています。このようなチャンスをいただけた事をこの場を借りてお礼申し上げます。

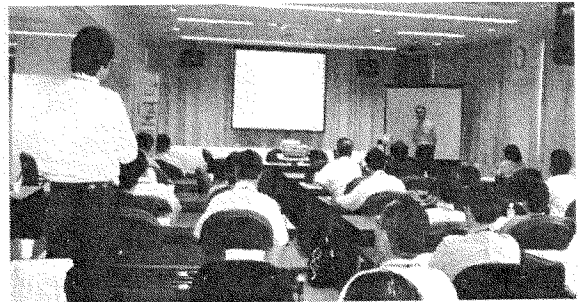
さて、ポスター発表では、自身の発表のためポスターの前に立つ時間が長く、あまり発表を見て回りませんでした。全体的にイネを材料とした研究が多いように感じました。また、個人的に精力的研究と感じましたのは、東北農研センターの小柳さん他 2 名による「バスケット法を用いた根の伸長角度が異なるコムギ品種のスクリーニング」と、生資研ジーンバンクの宇賀さん他 6 名による「イネ・コアコレクションを用いた根組織構造の形態変異に関連する染色体領域の検出」でした。今後の発表にも期待したいと思います。

残念ながら研究集会後の懇親会とミニツアーには参加できませんでしたが、かなり盛り上がったらしいと聞いています。東北以南からいらっしまった方々は北海道を感じていただけたのではないのでしょうか? 今後、根研究会が大いに発展していきましょうという息吹を感じつつ、今度、根研究集会にエントリーする機会があった時には、より積極的に交流を図りたいと感じています。

最後になりましたが、今回の研究集会の運営委員代表、辻博之さんならびに北農研と北海道大学のスタッフの皆様には「ご苦労様でした」と労いの言葉を贈りたいと思います。



議論に熱が入る懇親会場



講演風景

2005 年 8 月 30 日受付

* 連絡先 〒082-0052 北海道河西郡芽室町新生 北海道農業研究センター畑作研究部
FAX: 0155-61-2127